

フレキシブルフェース

完成品

SRS-130LED

開閉式

取扱い・施工説明書

このたびは、当社の製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。

- この説明書は、専門の施工従事者を対象としています。
- 正しく安全に取り付けていただき、また安心してご使用いただくために、この説明書をご熟読の上、手順に従い施工を、行ってください。
- 注意事項を守らずに施工された場合の故障や事故については、責任を負いかねますので、よくご理解の上施工管理をお願いします。
- この説明書は、安全維持とメンテナンスのために必要です。大切に保管してください。

説明内容

1. 守っていただきたい注意点	1
2. 各部の名称	2
3. 看板の取り付け	3
3.1 本体枠と開閉枠の分離	3
3.2 本体枠の取り付けと連結	4
3.3 アンカーボルトの選定	5
3.4 開閉枠の連結と本体枠への取り付け	6
4. 展張	8
4.1 テンションバーの準備	8
4.2 基準線の線引き	8
4.3 仮止め	9
4.4 仮締め	10
4.5 本締め	10
4.6 カット	10
5. 額縁の取り付け	11
6. 結線	12
7. シーリング工事	13
8. メンテナンスについて	13
9. オプション品の使い方	14

※コーナーユニットについては
H1400 までの対応となっています。

1 守っていただきたい注意点

■ 警告表示

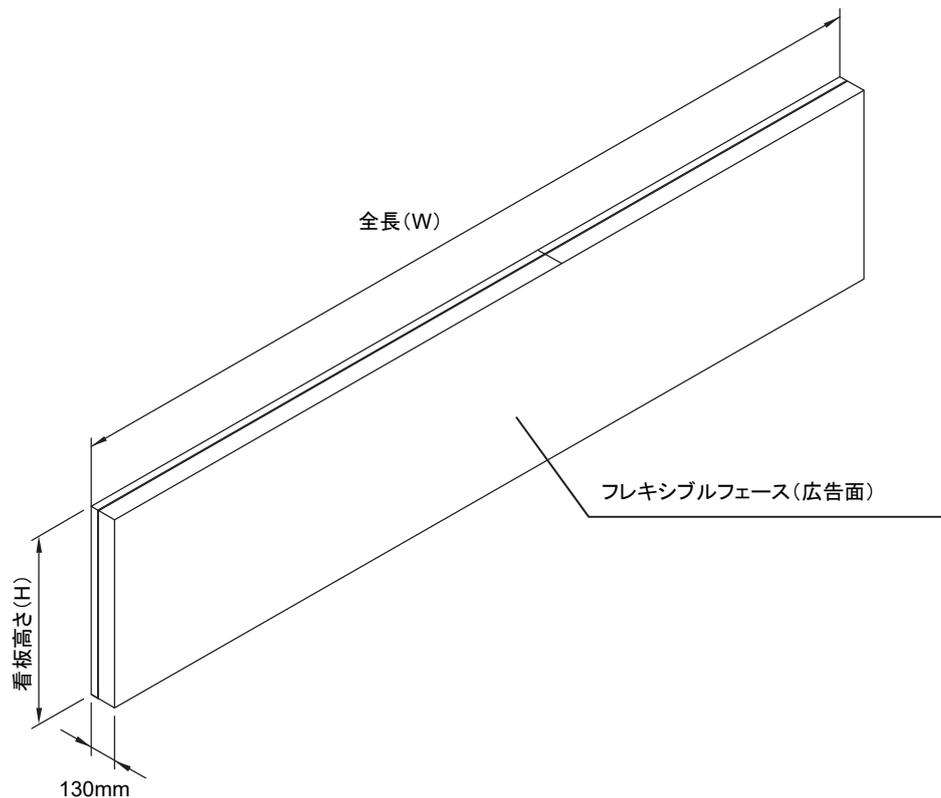
	警告	・ 重大な事故を起こす可能性があります。
	注意	・ 製品の破損や、ケガをする可能性があります。
	禁止	・ 気をつけていただきたい禁止内容です。
	確認	・ 気をつけていただきたい注意事項です。

	警告	本製品は、壁面サインです。建物壁面以外での使用はさけてください。
	警告	看板を取り付ける壁面は、取り付けに耐えうるか確認していただき、強固でない場合は、胴縁などの下地を施工してください。(看板の脱落により、事故を起こす原因となります)
	注意	看板上面、両側面の壁面側はシーリングを施し、雨水の浸入により、内部を腐食させないようにしてください。(漏電の原因になる可能性があります。)
	注意	施工の際、連結後の吊り上げはしないでください。 (ジョイント部にすき間が生じたり、フレームの変形の原因となります。)
	注意	看板取り付け位置の上部には、10cm のスペースが必要です。
	注意	一次側電源は回路遮断装置(ブレーカなど)のある電源系統に接続してください。
	禁止	当製品の改造はしないでください。使用条件が異なると安全性の再検討が必要です。
	確認	組み立ての際は、必ず本説明書と同梱の図面をよく読んで行ってください。
	確認	取り付け高さは、地上より看板天端で 8m 以下を守ってください。取り付け高さを越えますと、強風時に、看板、面板への影響が高まり、破損、脱落の原因になります。
	確認	フレキシブルフェースは、ガムテープなどで仮り止めの後、テンションバーにより確実に固定してください。 フレキシブルフェースに、ゆるみ・たるみが生じない様に確認してください。
	確認	テンショニング作業には、インパクトドライバーが必要です。

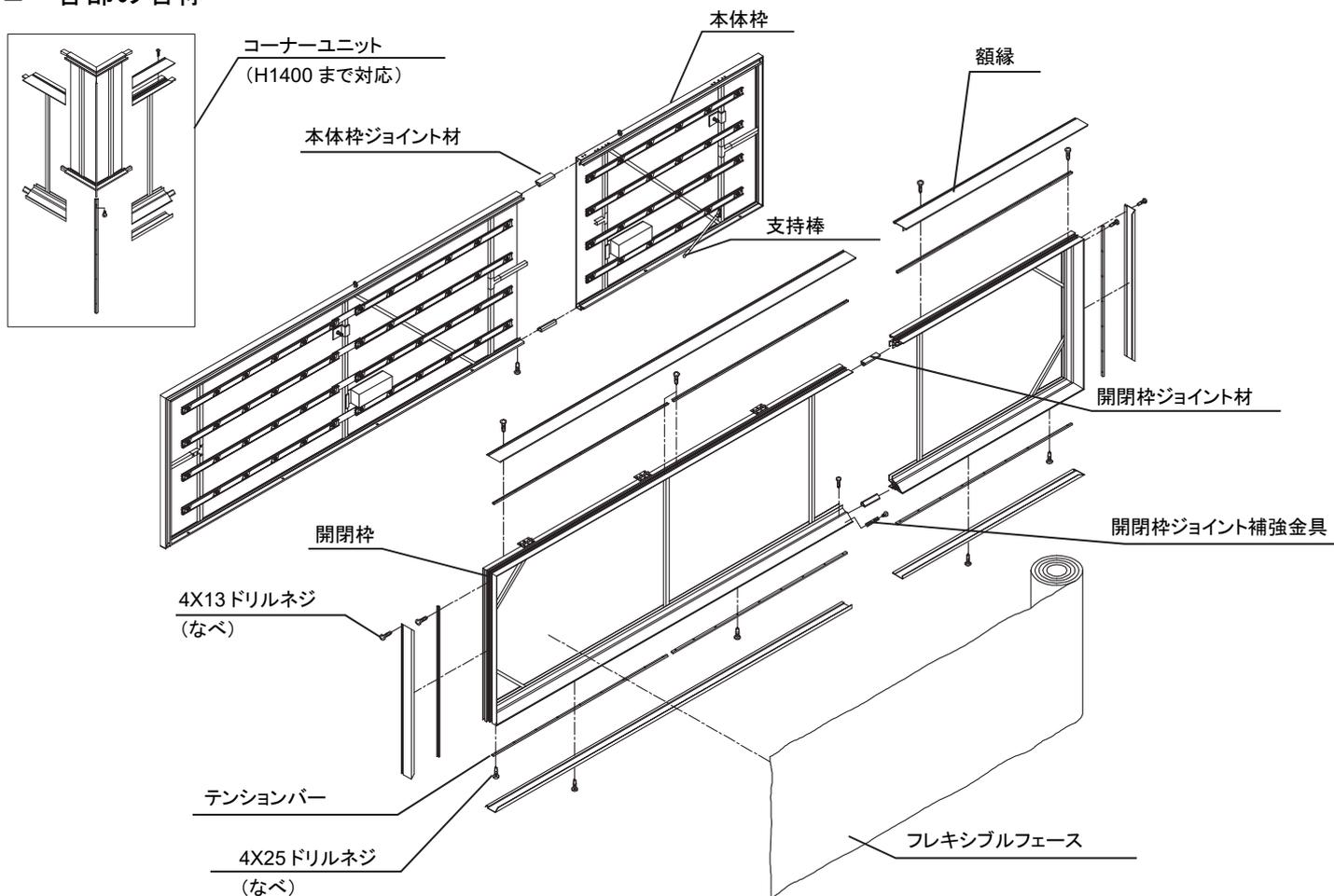
いずれも安全に関する重要な内容です、必ず守ってください。

2 各部の名称

■ 完了図



■ 各部の名称



3 看板本体の取り付け

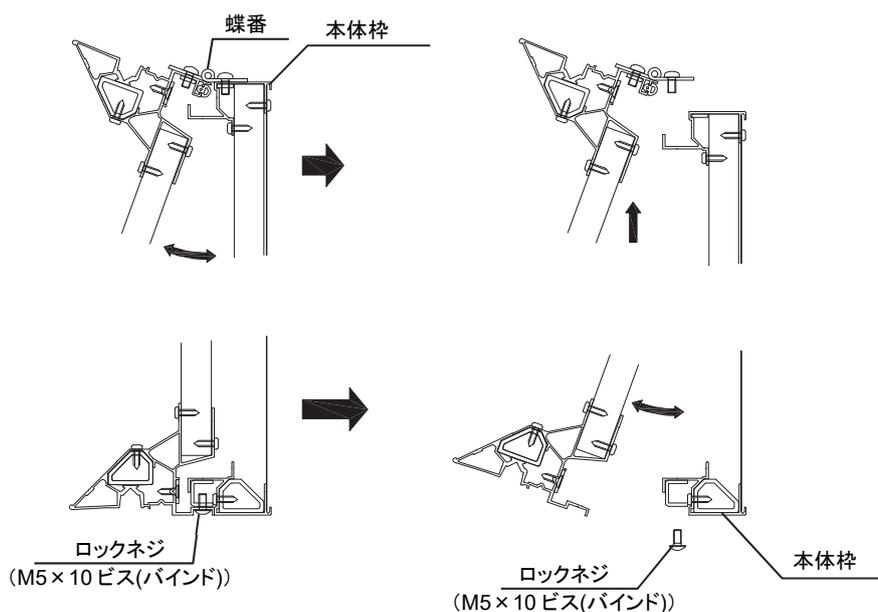
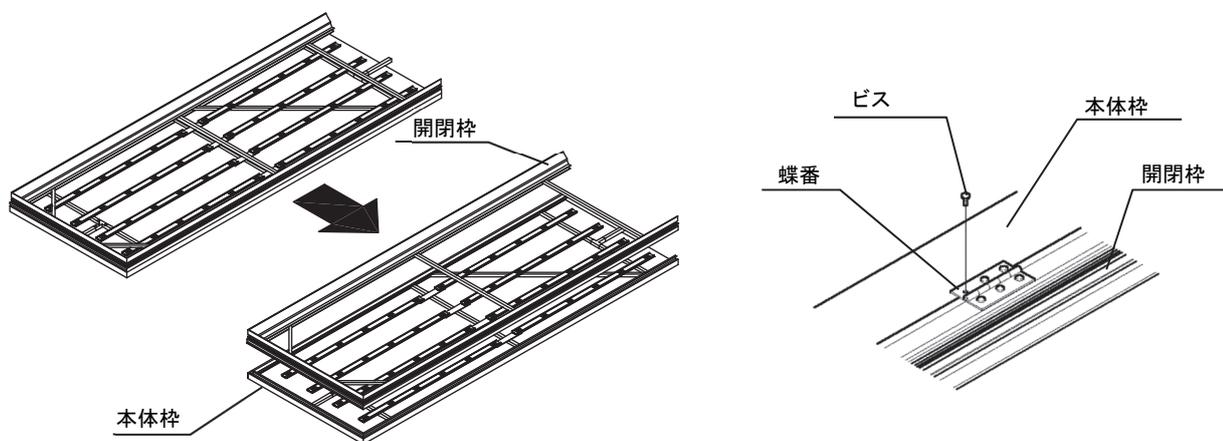
3.1 本体枠と開閉枠の分離

❗ 確認

- フレームのサイズによっては、シート貼り込み前であれば、本体枠と開閉枠の分離をせずに壁面に取り付ける事も可能です

1. 本体枠と開閉枠の分離

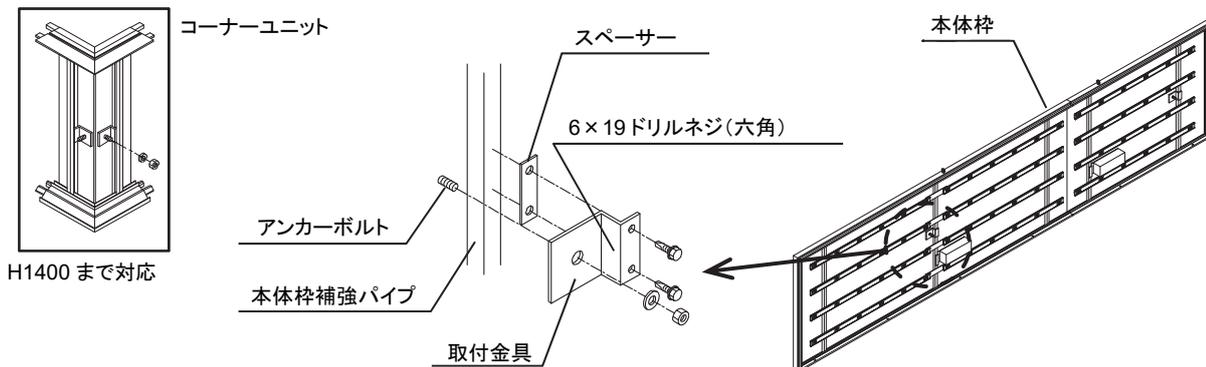
- フレームを本体枠(LED 部)と開閉枠(表示部)に分離します。開閉枠は上面の蝶番と側面および下面のロックネジ(M5×10ビス(バインド))で固定されています。
本体枠側の蝶番を固定しているビスおよびロックネジ(M5×10ビス(バインド))をゆるめ、開閉枠を少し開閉させ、フレームを上部方向に少しずらせると分離できます。



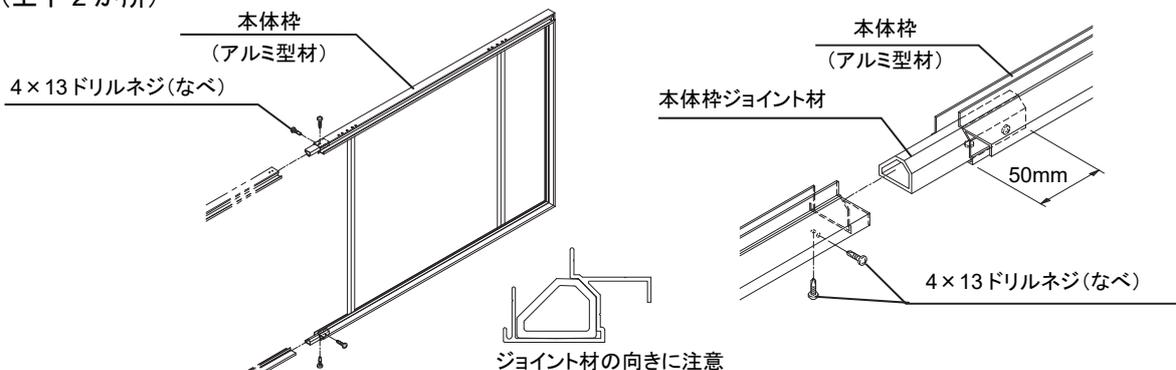
3.2 本体枠の取り付けと連結

⚠	警告	<ul style="list-style-type: none"> 本体枠の壁面の取り付けは、専用の取付金具を使用し、強固に取り付けてください。
❗	確認	<ul style="list-style-type: none"> 連結の際はフレーム同士にすき間ができないように取り付けてください。 すき間があると、光漏れ・雨水の浸入が生じ、漏電の原因になります。 取付金具固定の際、LED の下地パネルと重なる個所は切り欠きなどの加工をし、確実に固定してください。

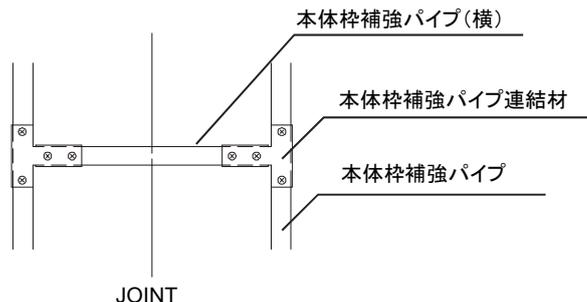
1. 一次側電源位置を確認後、本体枠側面または裏板部に結線用穴の加工をしてください。
2. 本体枠の壁面への取り付け
 - 専用の取付金具を使用して、壁面への取り付けを行います。
 - 本体枠補強パイプと取付金具にすき間がある場合は、付属のスペーサーを使用してください。
 - 基準となる本体枠を取り付けます。先にアンカー位置の 1 か所を墨出しにあわせて仮止めし、水平・垂直を確認してから他のアンカー位置を固定します。
 - コーナーユニットを使用する場合は、コーナーユニットから順次取り付けてください。



3. 本体枠の連結
 - フレームがジョイント式の場合、基準となる本体枠の取り付け完了後、先に本体枠の連結を行ってから、壁面側を取り付けてください。
 - 本体枠ジョイント部に本体枠ジョイント材を 50mm 差し込み、4×13 ドリルネジ(なべ)にて取り付けます。(上下 2 か所)



- 指定の位置に本体枠補強パイプ(横)と本体枠補強パイプ連結材を使用し、4X13 ドリルネジにて固定します。(H1400 を超える場合のみ)



⚠	注意	<ul style="list-style-type: none"> 光漏れの原因となるため、フレームのズレ・空きに注意してください。
---	-----------	--

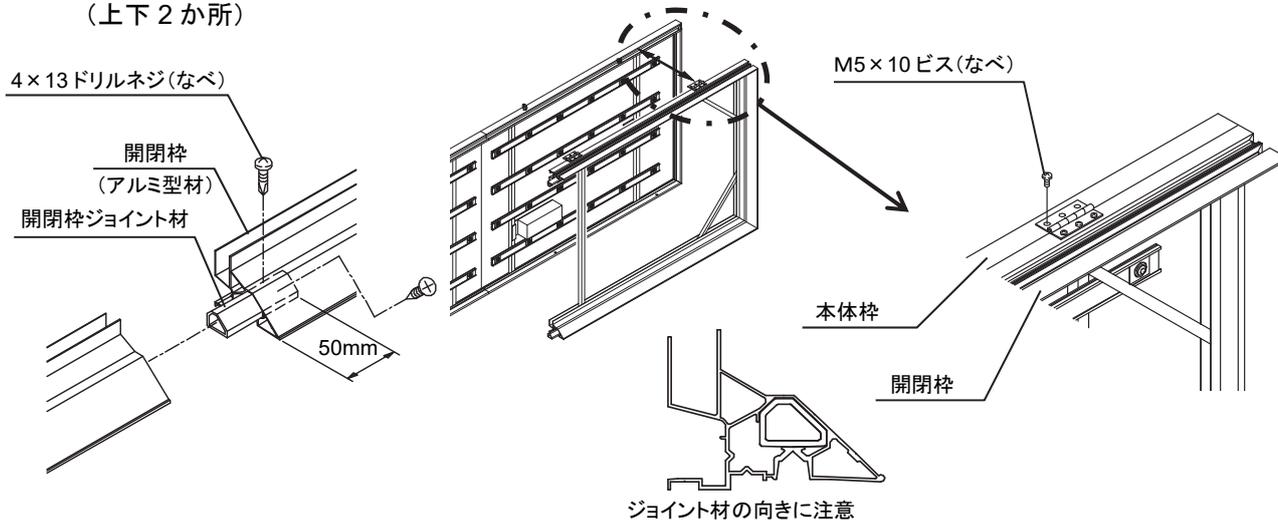
3.4 開閉枠の連結と本体枠への取り付け

<p>❗ 確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 開閉枠のロックネジ(M5×10ビス(パインド))は+ドライバーで、しっかりと確実に締めてください。 締め付けが弱いと、強風時に開閉枠が開く場合があります。
<p>❗ 確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 開閉枠と本体枠は、蝶番とロックネジ(M5×10ビス(パインド))でしっかりとはめあわせてください。 はめ合わせが悪いと、開閉枠の落下や雨漏り・漏電の原因となります。
<p>⚠ 注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ジョイント突き合わせ部に、すき間・ズレがあると、フレキシブルフェースの破損、光漏れなどの原因となります。

作業手順

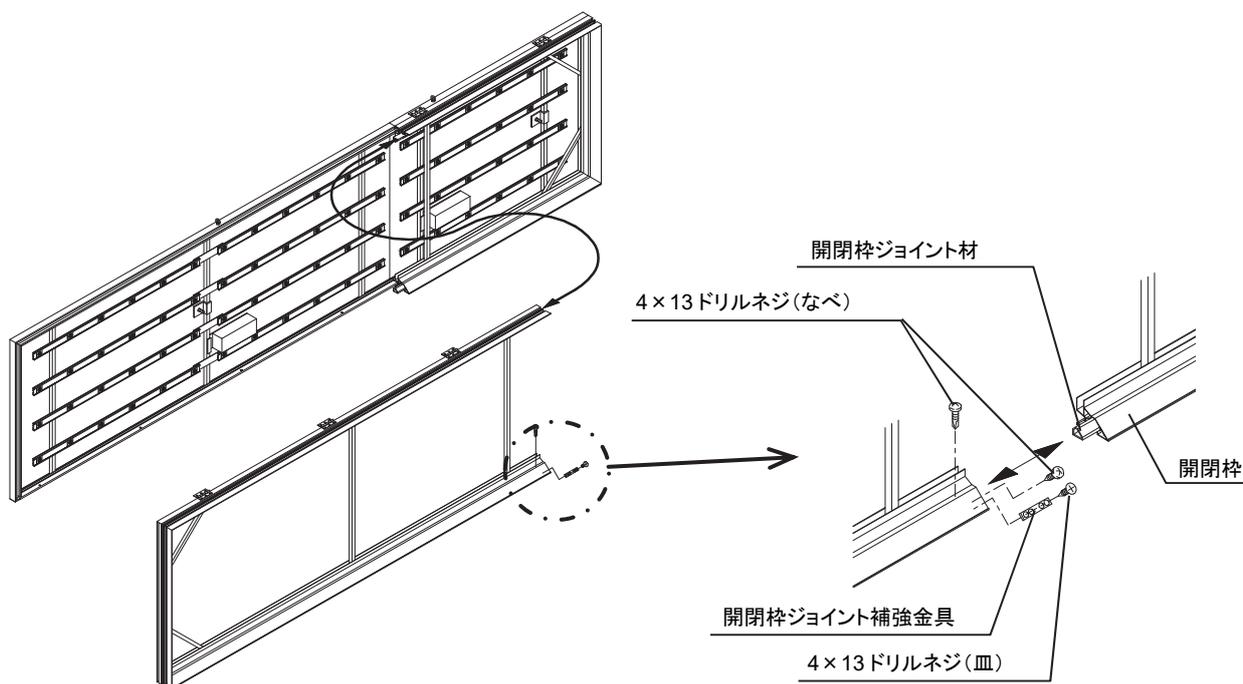
1. 本体枠への取り付け

- 壁面に取り付けた本体枠に対となる開閉枠をセットします、開閉枠側に取り付けられている蝶番の位置を合らし、M5×10(なべ)で固定します。
- 開閉枠ジョイント部に開閉枠ジョイント材を 50mm 差し込み、4×13 ドリルネジ(なべ)にて取り付けます。(上下2か所)



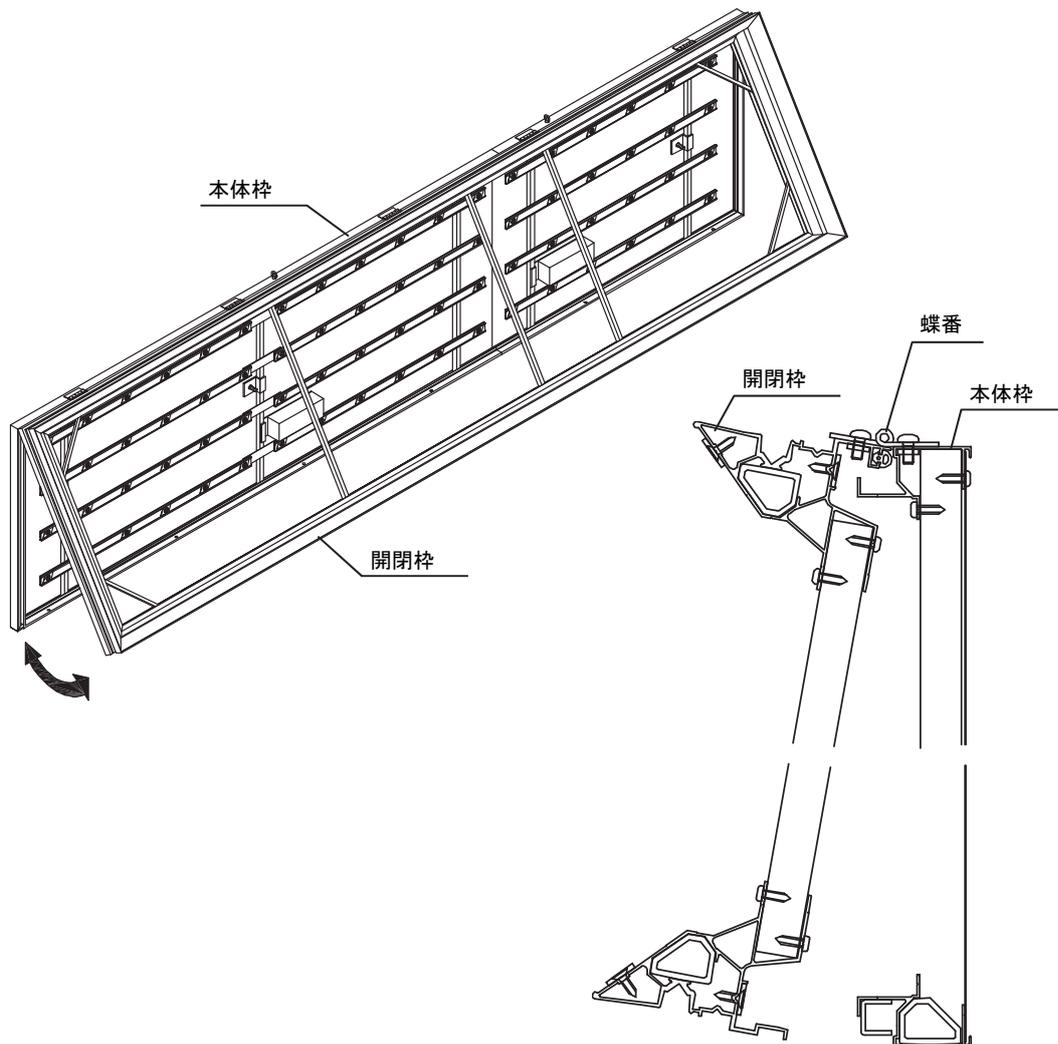
2. 開閉枠の連結

- 開閉枠のねじれや寸法を調整した後に、となりあう開閉枠を開閉枠ジョイント材および、開閉枠ジョイント補強金具で、4×13 ドリルネジを使用して連結します。



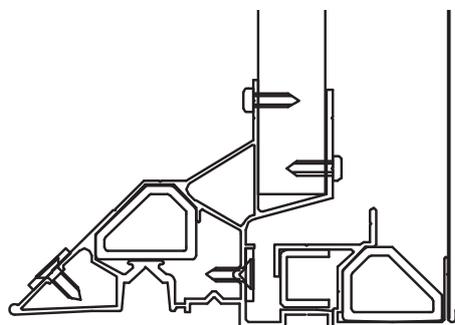
3. 開閉の確認

- 開閉枠の取り付け位置を確認し、2~3 回開閉テストを行い、はめ込みが完全かを確認してください。



4. ロックネジ(M5×10ビス(バインド))の締め付け

- 開閉枠を閉じて、ロックネジ(M5×10ビス(バインド))をしっかりと締め付けてください。



開閉枠 H1400 以下: 下部
開閉枠 H1400 超: 下部および左右側面



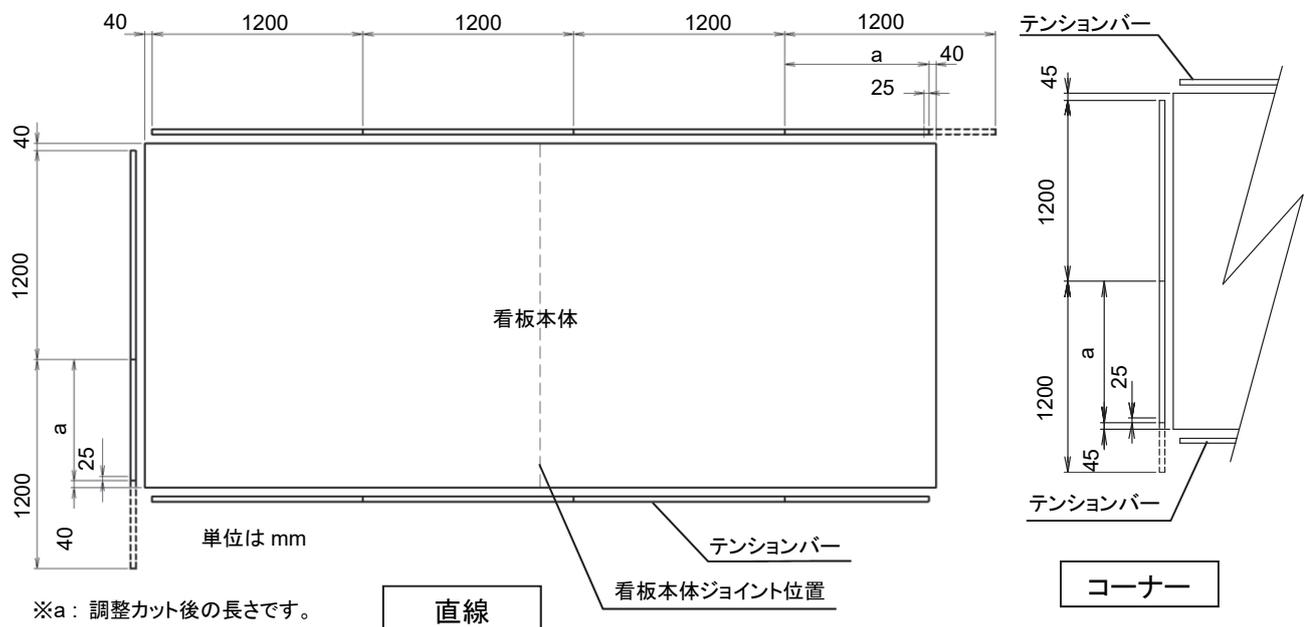
4 展張

フレキシブルフェースの展張は、通常看板が壁面に取り付けられた状態で行います。
(コーナーユニット使用時は、開閉枠を外して行ってください。)

! 確認	<ul style="list-style-type: none"> テンションビス(4×25 ドリルネジ)の挿入は基本的に、下穴加工の必要はありませんが、挿入しづらい場合、ドリル(φ3 程度)にて下穴加工を行ってください。
! 注意	<ul style="list-style-type: none"> 展張後の開閉枠をひねると、フレキシブルフェースがたわみ、シワの原因になります。

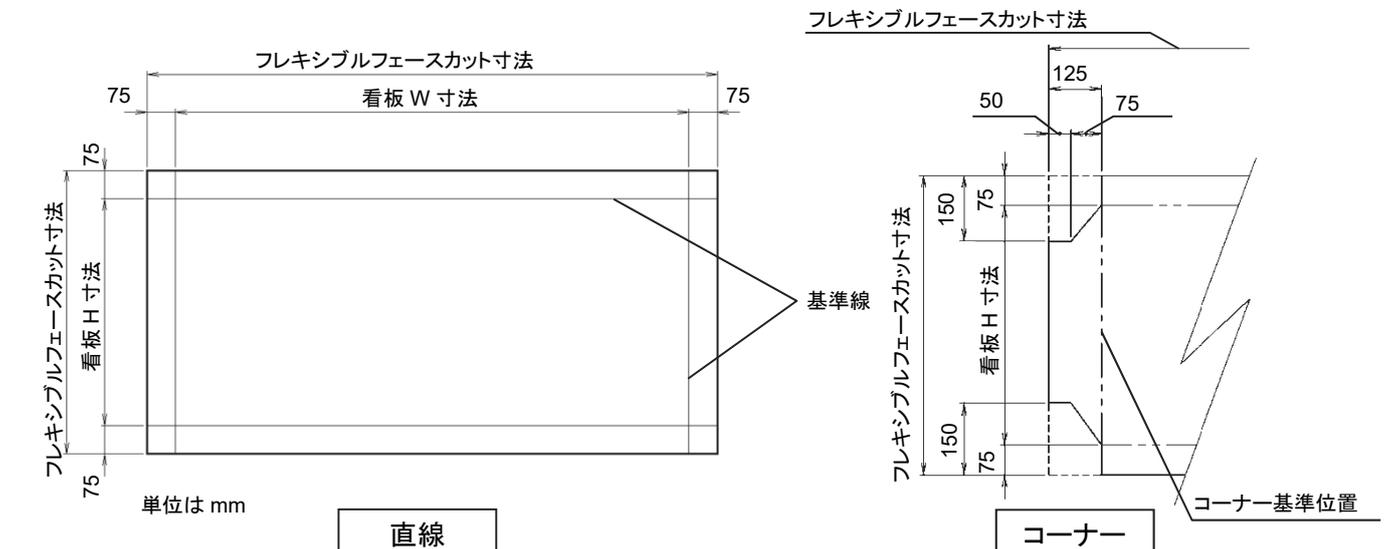
4.1 テンションバーの準備

- 「テンションバー」は、1本 1200mm の長さの物が、必要本数用意されています。
- 「テンションバー」は、両端 40mm あけて全面を押えます。
長さの調整は、両端 40mm あけてカットし、端から≒25mm の位置にφ 4.5 穴を追加してください。



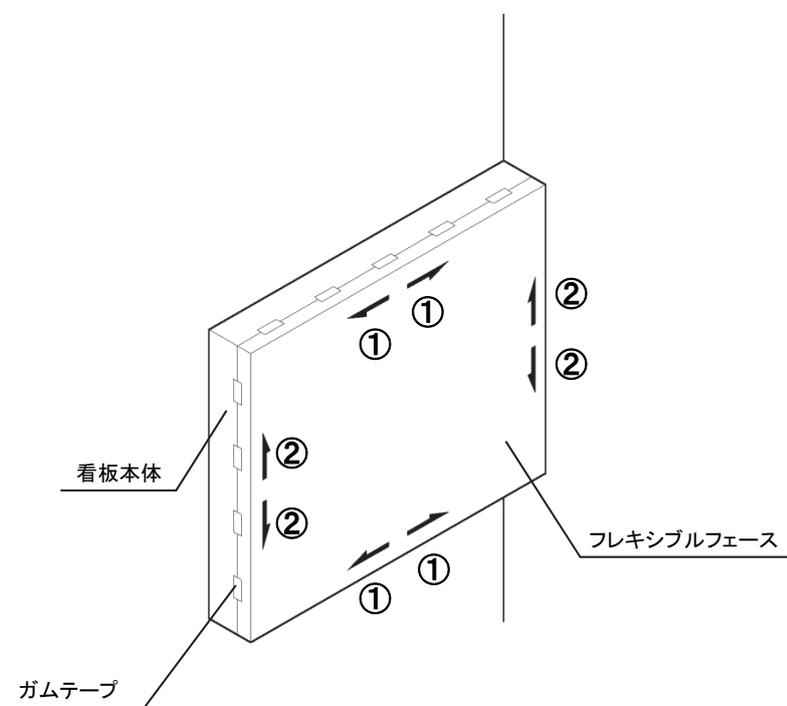
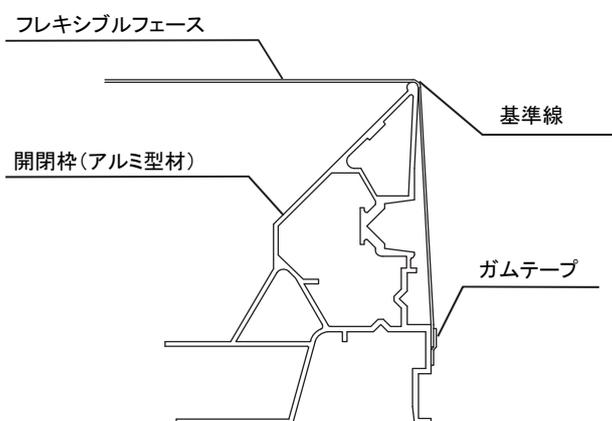
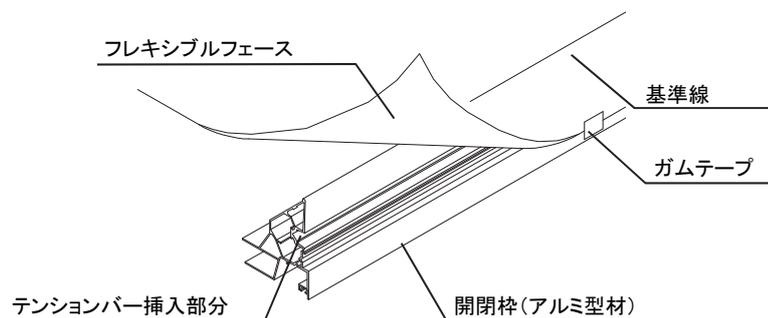
4.2 基準線の線引き

- フレキシブルフェースの端から周囲 75mm の位置が看板サイズ(基準線)となります。意匠の位置合わせおよび、テンショニング作業の目安のため、線引きをすることをお勧めします。



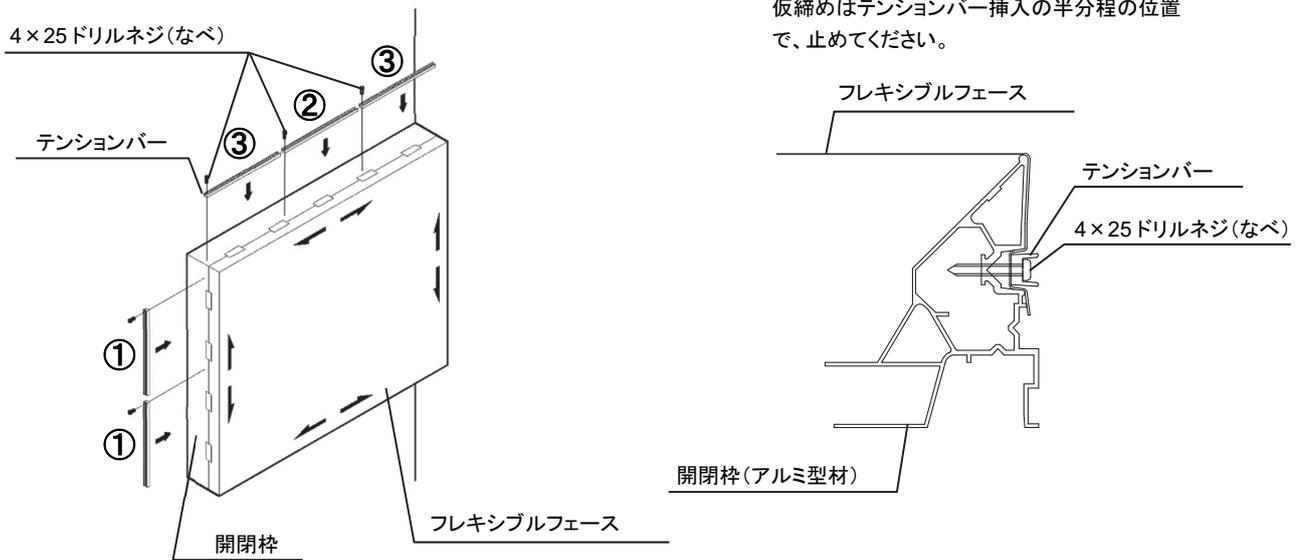
4.3 仮止め

- フレキシブルフェースを開閉枠に展開し、ガムテープで周囲を固定します。
このとき、ガムテープがテンションバーの挿入部分にかからないようにしてください。



4.4 仮締め

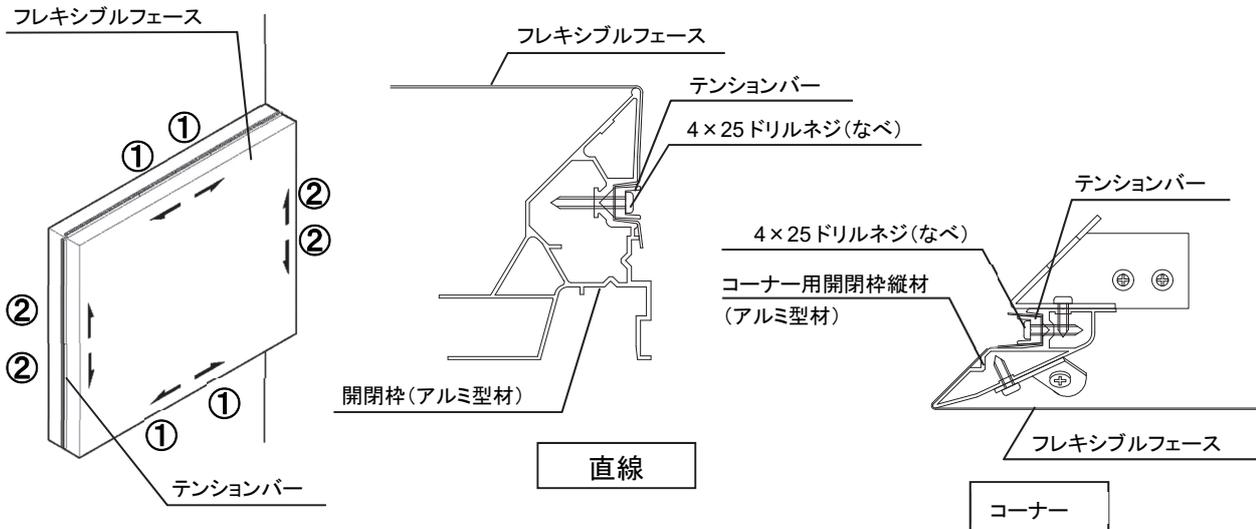
- テンションバーは、短辺側センターより両サイドへ向って、テンションビス(4×25 ドリルネジ)により仮締め作業を行います。長辺側も同様にセンターより両サイドへ向って行ってください。



仮締めはテンションバー挿入の半分程の位置で、止めてください。

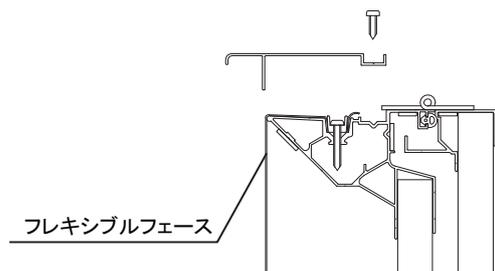
4.5 本締め

- テンションバーの、短辺側および長辺側のセンターより両サイドへ向って、しっかりとテンションビスを本締めし、テンションバーでフレキシブルフェースを固定してください。



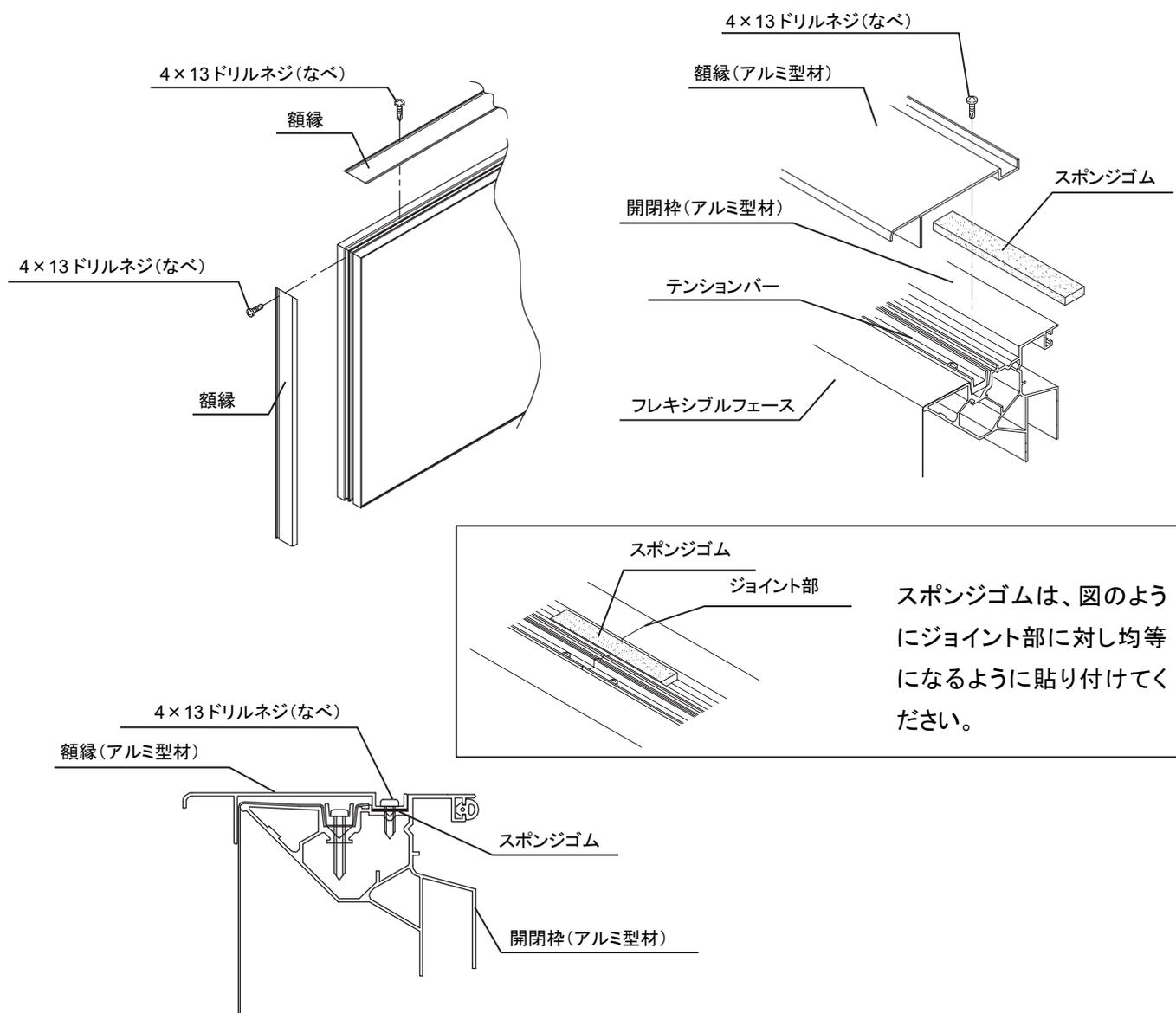
4.6 カット

- フレキシブルフェース展張後の端の余った部分は、額縁取り付けの際、額縁と開閉枠の間に挟み込まない程度の位置で、カッターナイフなどでカットしてください。



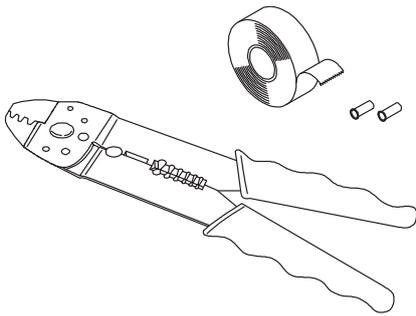
5 額縁の取り付け

- 額縁を、開閉枠の固定位置にセットし、4×13 ドリルネジ(なべ)を使用して取り付けてください。



6 結線

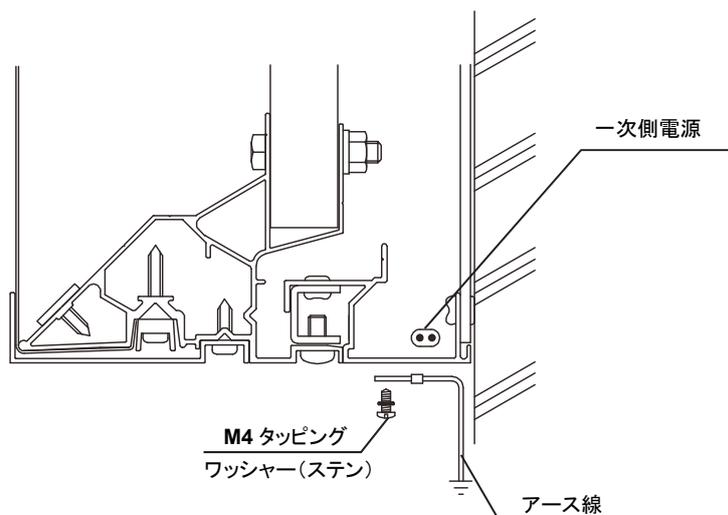
 警告	<ul style="list-style-type: none"> 結線工事は電気工事士の資格を持った技術者により、電気設備基準に準拠して行ってください。フレームから電線を出す場合、ゴムブッシングを使用し、電線の保護を行ってください。電線にキズを付けたり、挟み込んだ状態で使用すると、漏電・火災の原因となります。
 確認	<ul style="list-style-type: none"> 看板への給電は仕様書に基づき、専用の漏電ブレーカーを設置してください。看板側のトラブルが原因で、看板以外の電気製品に被害を与える場合があります。また、火災の原因にもなります。
 確認	<ul style="list-style-type: none"> アースは必ず設置してください。 結線終了後は必ず点灯、漏電のチェックを行ってください。



 警告	<ul style="list-style-type: none"> 電線同士の接続は電線の絶縁面積にあったリングスリーブ等を使用し、必ず圧着ペンチで確実にかしめてから、絶縁テープを巻いて絶縁処理を行ってください。
--	--

作業手順

1. 看板本体がジョイント式の場合、看板内部の結線および一次側電源の結線を行います。
2. 一次側電源を ON にし、点灯試験を行います。点灯しない場合は、必ず一次側電源を OFF にし、再度結線がされているか確認してください。
3. 電源コードがフレキシブルフェース面に接しないよう適所ごとに固定してください。
4. フレーム底面の適当な位置にアース端子接続用に M4 タッピングビス(ステンレス)を取り付け、アース線を使用しアースをとってください。



7 シーリング工事

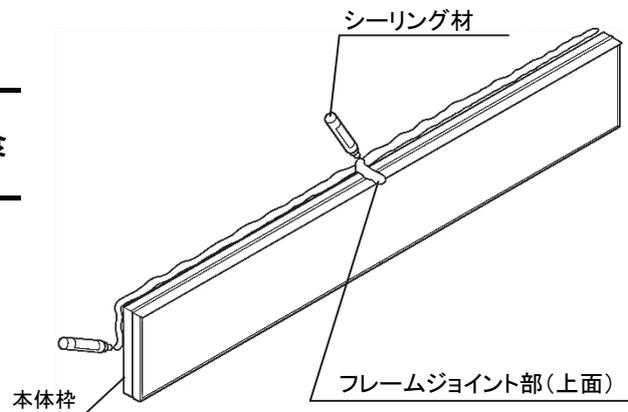
作業手順

雨水浸入防止のため、躯体と本体枠(上面・側面)およびフレームジョイント部(上面)にシーリングを行ってください。



注意

- シーリングが不十分な場合、雨水の浸入により本体内部の各部品を腐食させ、漏電の原因となります。



8 メンテナンスについて

■ LED の交換について

- 下部ロックネジ(M5×10ビス(バインド))をゆるめ、開閉枠を開いてください。
- 支持棒の先端を開閉枠裏面の支持棒受けへ差し込み、支持棒を固定してください。
- LED を交換します。
- 完了後、支持棒を収納し、開閉枠を閉じ、ロックネジ(M5×10ビス(バインド))で完全に固定してください。



警告

- メンテナンスを行う際は、電源器を切り、作業を行ってください。



注意

- 開閉枠の開閉作業を行う場合は、指などはさみ、ケガをする場合がありますので、十分に注意してください。



注意

- 作業中、支持棒が外れる可能性がありますので、支持棒へは必要時以外は触れないでください。

■ 清掃について

うすめた中性洗剤を含ませた、柔らかい布またはスポンジにより、表面の汚れを拭き取ってください。



禁止

- フレーム内部には、直接水をかけないでください。漏電の原因となります。



注意

- シンナーなどの溶剤は使用しないでください。



注意

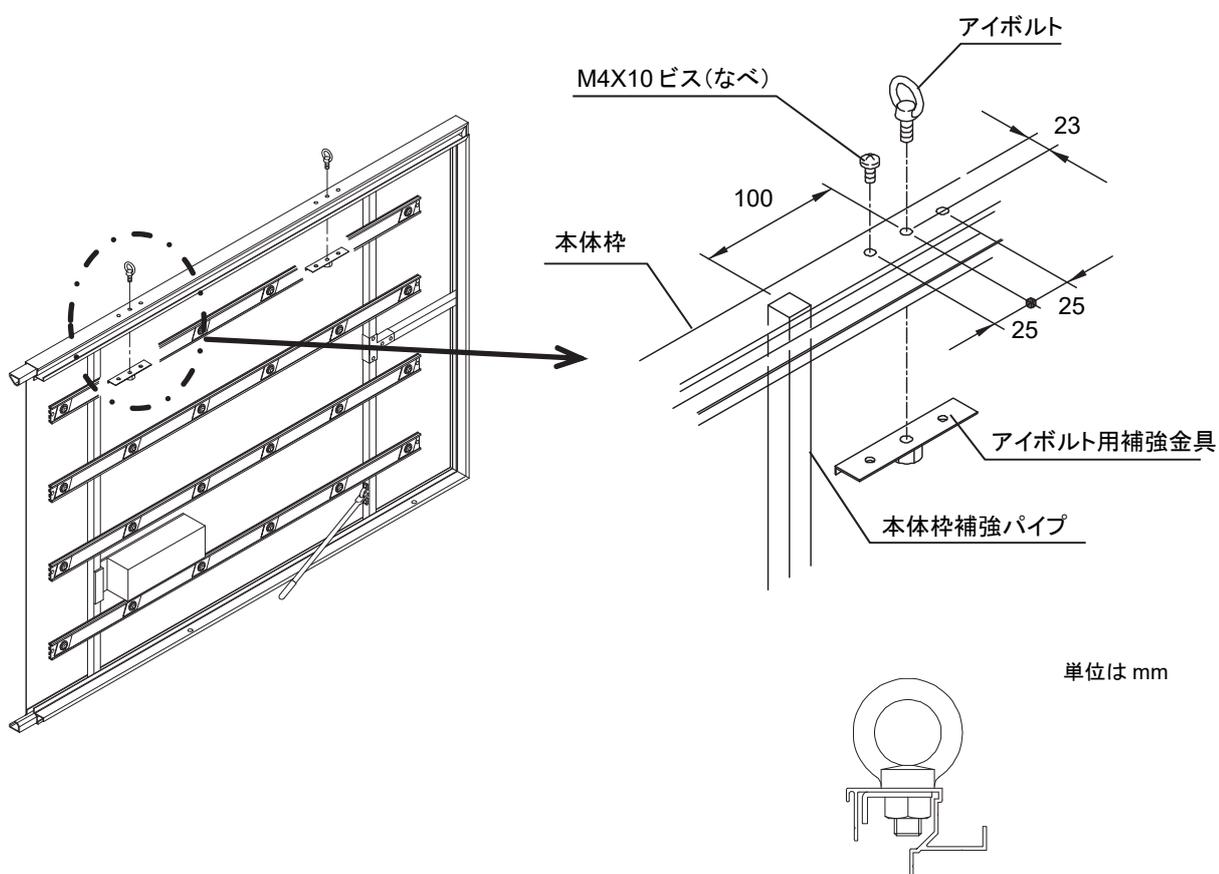
- 開閉枠および本体枠の内部を清掃する場合は、必ず電源器を切って作業してください。

9 オプション品の使い方

■ アイボルトの取り付け

⚠	警告	• アイボルトを使用するときは、必ず指定位置に取り付けてください。 吊り上げ時、本体枠の変形、破損、脱落の原因となります。
⚠	警告	• 本体枠に必要以上の負担がかかるため、連結後の吊り上げはしないでください。

- アイボルト用の穴加工(φ12)、アイボルト用補強金具固定用穴加工(φ5)を行います。
- 取り付け位置は、本体枠補強パイプから 100mm の位置に取り付けてください。



●製品は改良のため、予告なしに仕様変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

●製造元

 **三和サインワークス株式会社**

東京支店	東京都港区芝3丁目8番2号（住友不動産芝公園ファーストビル9F）
〒105-0014	TEL (03) 6275-1448(代) FAX (03) 5427-2755(代)
大阪支店	大阪市北区梅田3丁目1-3（ノースゲートビルディング21F）
〒530-0001	TEL (06) 6453-3002(代) FAX (06) 6453-3022(代)
福岡営業所	福岡市博多区博多駅中央街7番21号（紙与博多中央ビル9F）
〒812-0012	TEL (092) 472-7277(代) FAX (092) 472-7278(代)
京都工場	京都府綴喜郡宇治田原町大字岩山小字釜井谷1-44
〒610-0261	TEL (0774) 99-7702(代) FAX (0774) 99-7712(代)
つくば工場	茨城県かすみがうら市加茂5289-1
〒300-0198	TEL (029) 828-1615(代) FAX (029) 828-1289(代)

ホームページアドレス

<https://www.sanwa-signworks.co.jp/>

メールアドレス

info@sanwa-signworks.co.jp



(事業所案内)